



世界に希望を生み出そう

# Rotary International District 2800 山形西ロータリークラブ会報

会長：長澤 裕二 幹事：三沢 大介

地区目標 ロータリーを語ろう そして ロータリーを楽しもう

クラブテーマ 新会員を育てながら、ロータリーを楽しもう

- ◆点鐘：長澤 裕二 会長 ◆ロータリーソング：国歌・蔵王を仰ぐ
- ◆司会：平田 智則 S.A.A. ◆会場：山形グランドホテル



第2990回例会 令和5年9月4日(月)

## 会長あいさつ

長澤 裕二 会長



今日は海外旅行の話します。イタリアには3回行きました。私が40代のころ、ユーロではなくリラだったころのお話です。直行便が当たり前にならなかった時代です。

ミラノにお昼ごろに着いて、フィレンツェに飛ぶという個人旅行でした。

個人旅行というのは添乗員がいないんですね。添乗員がなくて、自分で勝手に行かなくちゃならないんです。フィレンツェ行きに乗り換えようと思い、予定を見たらその飛行機はどうも4時間遅れるという表示になっていました。4時間遅れるなんていうのはときどきあるんです。ただ4時間となっても、その4時間安心してお酒なんか飲んだら大変なことになります。それでその飛行機は、1時間後には「出ます」というふうに表示変更になったんです。それでみんな飛行機に乗って、もう飛び立つかなと思ったらなかなか飛び立たないんですね。それから2時間待たされてきました。2時間遅れて入ってきたのが、4人の日本人ツアー客でした。4時間遅れるというので安心してもお酒飲みしていて、ぐでんぐでんに酔っぱらって、要するに放送なんか聞いていないんですね。搭乗手続きしたお客さんがいると、どうしても出発しないんです。そんなことで我々はずっと待たされて、2時間待たされている間に、フィレンツェの空港では、落雷がばんばん激しくなって、飛び立ちはいいですけどフィレンツェに降りられなくなっちゃって、それで隣にピサの斜塔のピサという町があるんですけど、そこに降りまして、そこからバスでフィレンツェに移動ということになりました。

確かにフィレンツェに送ってくれたんだけどもう夜中なんですね。夜中だからバスもなければタクシーもない。そういう状態になりまして、英語だとなんとか単語をしゃべればだいたい身振り手振りでなんとか通じるんですけど、イタリア語だとまったくわかりません。ほんとに困っちゃいまして、でもなんとか、夜中にタクシーをつかまえる人がいるのでなんとか同乗させくれとお願いして、市内のホテルまで行きました。だいたい夜中の2時になっていました。

こんなふうになるというのが海外旅行ではよくあることなので、団体で行けばだいたい安心して行けるかもしれないですけど、個人旅行の場合は皆さん気をつけないと大変なことになります。

といってもイタリアはそのあとまた2回行きて、イ

タリアはやっぱりワインがおいしくて料理もおいしいので、つい行ってしまいます。すごくいい所だと思います。ただ、いい加減な国民性といいたいでしょうか。映写機の方をイタリア製の映写機を使っていたのですが、工場の人たちがなかなか働かないので、期日どおりに機械が納まってこないというようなことがありました。やっぱり国民性というのがあると思います。

今日はつまらない旅行をしたという話で、皆さまにはそんなことがないように気をつけてください。

## 幹事報告

三沢 大介 幹事

- 本日、例会終了後に理事会のほうを開催いたします。関係者の方はお残りくださいますようお願いいたします。
- 今月のロータリーレートは146円です。

## 委員会報告

親睦・家族委員会

- 会員7名、奥様が10名、9月に誕生日を迎えられます。おめでとうございます。

## ニコニコBOX

〈9月4日〉

長澤裕二会長／最上川フォーラム、柴田会長をお迎えして10月1日に最上川一斉清掃活動を行います。今日はその意義も含めて最上川のお話をさせていただきます。よろしくお祈りします。

清野伸昭さん／柴田先生をゲストにお迎えしてニコニコします卓話を楽しみにしております。

飯田喬之さん／県美術展、9月18日までです 入選しましたのでニコニコします。ぜひ足を運んでください。

市村清勝さん／左肩も

右肩に続いて左肩も腱板断裂という診断で、お盆明けに手術をしました。結城和生先生の息子さんからオペをしていただき、順調に回復し、1カ月の入院の予定を1週間で退院することができました。おかげさまで今日、出席できません。



美しく元気な山形を共に次世代へ

柴田 洋雄 さん

【美しい山形・最上川フォーラム 会長】

今日お話しさせていただく「美しい山形・最上川フォーラム」は、今年で22年になります。任意団体で22年もっているというのは珍しいんじゃないかなと思ってるんですけども、一番最初は、高橋和雄さんが知事の時に、県内を、4つのブロックがあるんだけど、ブロックごとに自立して全体に1つのまとまりがないと。すると、全体をまとまるようなものの何か活動をしたいというような形でできた時に、最上川が県内の全部、実は厳密に言うと遊佐とか小国は入っていないんですけども、県内全部をカバーするので、最上川を中心とする活動で美しい山形を作ろうというような形がありました。こういうのは非常に珍しいんですけども、その時の構成員が、一番中心になって提案した人が日本銀行の所長さんだったので、起業が銀行なんですね。県内に本店のある銀行、信用金庫、信用組合をはじめ、地方銀行が全部中心メンバーになって作りました。それで今でも会員になっていただいているんですけども、そのほかに市町村、当時は最上川が流れている市町村だけだということで、山形市の市長は「山形市は最上川が流れていないから入らない」とかやっていたんですけども、吉村さんが知事になった時に「県内全部の動きなので、35市町村全部に入ってもらったほうがいいんじゃない？」ということで、今は小国も遊佐も全部入っています。だから35市町村が全部会員になっています。会の構成員、今はちょっと減って3,000人をちょっと切ったんですけども、一時期は5,000人くらいの会員になりました。だからそういうふうな意味で、皆さんの中にも22年間会員になっていただいている方がたくさんいると思うんですけども、本当にありがとうございます。これだけの環境を通して地域をよくするという団体は全国にないんですね。だからその意味で、今年の6月ですか、国土交通省で河川功労者ということで東北では東北全体から1つだけ代表で選ばれたんですけども、それで東京に行って、令和5年河川功労者表彰というのを受けてきました。そういうふうな形で我々の活動が継続できているのは会員の皆さんのおかげだなというふうに思っているところです。

それでその立ち上げの時、一番最初の時は東北公益文化大学の副学長だった大島さんが会長だったんですけども、1期2年で終わる時に、どういうわけか僕に「あなた、やりなさい」と言われて、なって、今20年になります。それから、今3,000人から4,000人の会員の会長を20年間務めているというのは、よっぽどの怠け者か本当に優秀かどっちかだと思うんですけども、僕はどっちも優秀でないで今まで務まってきたかなという感じがするんですけども、いろんなところにいると「美しい山形・最上川フォーラム」というのは大学の先生たちの集まりがあった時に、日本全国を代表して表彰を受けたりしています。そういうことで、会員の方はご存じだと思うんですけど、会員でない方はなかなか我々のことを知らないんじゃないかなと思うので、今日はその会を説明するというのでいい機会を与えていただいております。

今日お話をするのは「美しく元気な山形をともに次世代へ」ということで、世代というのは我々がではなくてその子ども、孫というような形で、長い時間をかけて継続するというような形です。これが我々の活動です。それで、その「美しい山形・最上川フォーラム」というのはどういう団体かということをお話させていただきたいんですけども、豊かな自然環境と文化が息づく魅力あふれる山形をともに作りましょうということです。だから意識としては環境を問題にしているので、長い時間をかけて地域をよくしましょうと。その時に環境だけでなく文化とかそれから自然の魅力、そういった幅広く地域を知りましょうということで、経済の活性化も柱の1つにしているわけです。これが珍しいということですね。それでその活動の中心に金融機関があるので、企業の方々は今まで環境という経済活動は環境に悪いからダメとかって言うんですけども、金融機関が中心ですよと言うと、そういうことじゃなくて環境と両立するような地域の活性化かということよく理解していただいているところです。

活動は今言ったように長い時間をかけてできるように次の世代を育てよう。だから意識的に小学生とか家庭の子どもとか、それから年寄りとか、そういう長い世代の人たちが一緒になって活動していきましょうというような形で、できるところからやっっていこうというのが基本です。ただ、残念ながら最近は学校がなかなかそういう地域の活動に充てる時間がないものですから、小学生がなかなか参加できないんですけども、我々としては、小学生とか中学生とか高校生が地域の環境について勉強して、その研究が国際学会で発表できるようにつないでいくというのが僕らの仕事かなという感じがしているところです。だから高等学校にはクラブ活動なんかでもいろいろ活動していただいています。

それからもう一つは、今、環境保全と安心づくりということで、環境について、皆さん高知の四万十川が日本一きれいな川だとかって言われると思うんですけども、最上川が河口に出る時の水の水質の美しさと、四万十川が河口に出る時の水の美しさは同じです。これは山形の人誰も知らない。僕が思っているのは、海に水を流すのはもったいないから、あそこから100メートルくらい上で水を取って、それを売ったらいいんじゃない、と。タンカーを外国にやる時、海の水を入れて送っているんですけど、それが公害を起こしているんで、最上川の水をビニールの袋に入れて送ってやって、向こうにすれば、飲み水とか何かにするのに低コストでできるんじゃないかと。というふうになると、原油をもらってきて代わりに最上川の水を持って行くとタダでできるというような、そういうことではないかと言ってるんだけど、誰も信用してくれない。でも実際にはそのくらいに美しい水なんですよということです。

それから活動の3番目に環境とか文化、これは最上川は昔からあるように、江戸時代の京都の文化が入ってきていますので、お雛様とか何かは酒田から米沢までルーツみたいなのが、つながってるのがあるわけですね。今はあんまり川を通した交流はないんですけども、昔は川を通しての地域の交流があったということで、最上川を通して地域のつながりというのがあるんじゃないかということで、今我々は白鷹とか左沢とか、昔、最上川が中心で活動してきたところをもう1回フォーカスを当てて、地域の元気な柱にしたいなというふうに考えているところです。そういうことで地域の活性化に生かしていきたいと。その時に、我々は怠け者で、地域の活性化は必要だと言っても何かシ

ンボルみたいなものがほしいので、それでこういうところにある桜を中心として最上川沿いに全部桜を植えよう。ちょうど北海道に行く飛行機がこの上でターンするんですよ。そうすると、山形の上で見ると最上川沿いの桜が全部きれいになってたらいいんじゃない、という。そして実際に地域でその桜をいろいろ管理している人たちがいるので、その人たちを応援しながら地域の長い、100年、200年続いた桜を大事にするという文化をこれからも続けていこうというようなことでやっているところです。

そういうふうな形で環境活動しているんですけども、基本的には誰1人残さず、すべての人ができる活動からやっていこうということで、今一番新聞とか何かに載っているのは、スポーツGOMI拾いという、これは皆さんの会社とか何かで参考にしていただければいいんですけども、会社とか団地とか何かで、区域を区切って、時間を区切って、その中でごみを拾うと。そのごみの時に、拾うのが難しいような、昔ですとたばこの吸い殻とか、そういったものを集めると、それを重さで計るんですね。普通のごみをたくさん持ってきてもポイントは少ない。ところがたばこの吸い殻は軽いけれどもそれを集めると多くなるというので、小さな子どもはたばこの吸い殻だけ集めて1番になるとかっていうような形にしよう。そういうふうなスポーツGOMI拾いをするによって、団地の中とか商店の中とかいろんなところで、それをみんなで拾おう。そうするといろんな人から、参加する20人とか30人が拾っただけでたいしたことないだろうと言われるんですけども、ところが僕らからすれば、そこで拾うことによってその子どもは家で家族に話すわけですね。すると、お父さんが何かでちょっとポンと捨てると、子どもから「今何捨てたの？」というふうに言われると、我々がごみを捨てるべきじゃないと言うよりも家族から言われたほうが効果があるんじゃないかなという感じがするわけです。そういうことで、家族の小さい人たちから環境問題を考えていくということがポイントかなというふうに感じているところです。

そういうことで、環境問題を通して地域を美しくしようというのは非常に時間がかかります。それを継続できるような組織だと思うんですけども、我々は産学官公民といってすべての団体が入るようになっているわけです。産業界は1つはさっき言ったように金融機関が中心なんですけれども、最近は建設業とかそういういろんな会社の人たちに参加してもらおう。学は、一応僕が大学にいたこともあって大学も入ったんですけども、高等学校とか小中学校とか幼稚園とか、学校も参加しよう。それで今これから考えるのは、大学生にいろんな事業を企画するんですね。地域の人たちと何か新しいことをやっていこうという時に、どういうふうに企画していいか、どういうふうに実施していいかというのはわからないと思うんですけども、それは我々フォーラムが学生を指導して、学生たちがこういう形で活動すれば事業化ができるんじゃないかと、そういうふうな形にしよう、そのことが学生が就職する時の「大学で何を学びましたか」というものの中で非常に高い点数を付けられるんですよ。それを大学がやってもいいんですけども、大学があれだけの組織にやってもらうのは大変なので、我々がそういう気持ちのある学生を集めて、ここであそこの天童のグラウンドなんか集まって、この範囲内で1時間でごみ拾いをやろうと。どこに連絡するかとか、賞品をどうするかとか、そういうふうな形で学生に企画してもらって、その企画書どおりにやってもらうと、その成果を新聞記者に言って、それを記事にして

もらおう。そこで集めた時に、我々はどういうごみがどこにあったかということ必ず記録に取ります。その記録を全国川ごみネットワークというのが東京に集まりがあるんですけど、そこに送るとそれは全国から集めたやつが全部そろって、国連のほうの機関に報告されるわけです。だから家庭の主婦とか子どもとか学生が集めたそのデータを必ず生かしますよというような形でやっていくのもポイントじゃないかなと感じます。

そうすることによって、1人1人の力も本当にコマ以下みただけけれども、全体の力が集まってくると世界の中の動きも動かせるんじゃないかなという感じがするわけです。そういうふうな形で今やっているスポーツGOMI拾いというのは、出発点は東京の人が始めたんですけど、そのアイデアがいいということで、山形を支部にもらって、今1万人以上がごみ拾いをやっていて、日本で一番活発なスポーツGOMI拾いをやっているというふうな形です。そういうふうな形で今活動しているんですけども、先ほど言った全部の市町村もメンバーに入っているし、県も入っているし、それからもう1つは国の機関、国土交通省が全部入っています。これはよその人に自慢するんですけども、国土交通省の事務所が山形には山形と新庄と酒田があるんですけども、その3つの所長さんが僕らの会員です。会議があるとその3人の所長さんが集まるんですけども、国土交通省の3人の所長が集まる会議は山形では開かれないんです。県が号令をかけても山形だけとか、酒田だけとか、新庄だけと。ところが我々のほうには国土交通省の3つの所長さんが入ってきて、最上川をどうして、地域をどういうふうにしましょうかということいろいろ話をしてくれるということです。そういうふうな形で、組織として国交省もある、県もある、市町村もあるんですけども、多くの場合は組織に上下があるんですよ。そうすると、市町村の人がこういうことを言っても県から何言われるかわからないと。だから県が言うのを待ってたほうがいい、国交省が言うのを待ってたほうがいいとかっていうのが普通の組織だと思うんですけども、我々の集まりはすべてが平等ですよ。だから小国の人たちが何か言っても、遊佐の人が言っても山形の人と同じようにするし、県の人と同じようにする。そういうことで新しいこと、どうすればいいかというクリエイティブなことを言っていただければ、我々の会議の中では重要視されてそれを実現できるようにするという、そういうふうな活動をおこなっているわけです。

そういうことで多くの人、子どもとかね、初めて活動する人にとっては自分が言っても全然社会は動かないじゃないかと思うかもしれないけれども、そういう場所でもらって一緒になって汗をかいてもらおうと、それが活動として生きてくるという。つまり、地域の1人1人が主役ですよというふうな形を自覚してもらおう。そういうふうな会に持っていきたいなと思っているところです。

だからたくさんの人たちが会に参加していると思うんですけども、一番我々にとって時代なのかなと思ったのは、一時期は5,000人くらい会員がいたんですけども、高齢化になってみんなお年寄りになって、辞めちゃうんですね。それで今3,000人を切るくらいになってきていると。だからこの22年間、会費は1人1,000円ということで上げないことにしているんですけども、今、会費が少しずつ減ってきている。それで2、3年前から、これからは個人の会費を上げないで法人の会費を、法人は3,000円だったんですけども、それを10,000円に上げてもらえないかとか、もし余力があったら50,000円に上げてもらえないかという

ような形で、会社のメンバーの人たちに参加してもらって、それでいろんなごみ拾いと何かをしてもらえるとありがたいのかなと思っているところです。それが市町村はそういう会の中で企業とか個人とか何か活動している時に、普通の場合ですと市町村が号令をかけて地域住民が活動するんですけども、地域住民のほうがこういう活動をしようという形で市町村が参加し、県が参加し、国交省が参加すると、山形の動きというような形になってきて、全国に新しい動きをもたらすんじゃないかなという感じがするわけです。

我々が今まで一番大きい仕事をしたかなと思ったのは、東日本大震災が起こった時に、東北の震災を受けた地域を元気にしようということで、桜を植えていこうと。そうすると、一番わかりやすいのは、津波が来た高さのところにずっと桜を植えていこうというような形でやって、それが10年間続いたんですけども、今10年が終わって活動も終わっているんですけども、東北の福島とか宮城とか岩手とかの人たちに元気を与えることができたんじゃないかなという感じがする。そういうふうな形で、美しいというのは住んでいる人が美しくないといけないんですけども、その時にお金がないよりはあったほうがいいけれども、自分のためでなくて自分の子どもとかほかの人のためのことが考えられるような人は美しい人だろうと。そういうふうな形で、あと、年老いた人とか今までの活動してきた人たちの思いを継続していくことによって、桜の木とか何かを大事にしていくということも美しいことじゃないかなというふうなことで、美しい元気な山形を作っていこうというふうな形で今来ているところです。

そこから継続していきたいなと思っているんですけども、本日皆さんの資料の中に入っていると思うんですけども、「美しい山形・最上川フォーラム」会員募集中というところで、これに参加していただいて、一緒になって何かやっていきたいというような感じをしているところです。だから我々とすれば、こういう環境問題で地域をよくするには時間がかかるというので、継続することが力だなという感じなんです。継続するのは誰か大物がいてやるんじゃなくて、1人1人がみんな対等でやっていこうというふうな形です。

このごみ問題とかいろんな形でやっているんですけども、最近プラスチックごみが海でいろんな人間の環境問題を起こすということで、声を大きくして政党ぐるみとかね、なんかでやってるんですけども、あれは間違いじゃないんですけども、声を大きくして環境問題が大事だよと言うのもいいけれども、身近なところの環境問題を考えるのも大事かなということで、我々とすれば、意識的にあまりその「ごみをどうする」とかって言うよりも、前にやっただんですけど、買い物に行く時の買い物袋の袋ですね、あれを自分でマイバッグを持って行こうということで、マイバッグを会員のみんなに配布して、それを持っていくとプラスチックの袋はいらなくてすみますよというような形でできて、それをおこなったので、山形市内でスーパーが買い物袋を有料にするとか出さないとかってなった時に、地域の人たちの反対運動は起きなかったんじゃないかと思うんですね。それはマイバッグということで、ごみを1人でも出さないように、袋1つ出さないような形で身近にでき

るようにしようということをやることによって世の中の動きはうまくいくのかなという感じがします。だから山形の消費者連盟がレジ袋を有料にしようとか廃止しようとか言った時に、スーパーの人たちは誰も反対しなかった、地域住民も反対しなかったというのは、我々の動きが先行していたことが良かったのかなと思っているところです。ということで、環境問題は小さなことで長続きさせる、幅広くいろんな人に協力をもらっていくというのがこれからの活動かなと思っているところです。

我々年間予算2,000万円くらいでやっているんですけども、なかなか世の中お金がなくなってきて、会費が減ってきているのが非常に問題なんですけれども、これからも継続していくために仲間を増やしたいと思うので、ぜひ皆さん、今日をご縁にしてそのフォーラムの活動を知ってもらって、時間があたらいろんな発言をしてもらおうと。それで自分が「こういうふうにしたい」という世の中を作っていくことができるんじゃないかなというふうに思うんです。そういうふうな形で活動をぜひ知っていただければありがたいかなと思っております。そのような形で参加していますので、ぜひお考えいただければと思います。

それで、先ほども言いましたように、この「美しい山形・最上川フォーラム」は国土交通省の中でも高い評価を受けていると同時に、全国の学会でも評価を受けて表彰をもらっているという。そういうふうな形で間違っていることはしてないと思うんですけど、今は仲間を1人でも増やして長続きする工夫をというような形で、今、中心に力を入れているのは、子どもたちからそういう意識を持ってもらって、川にごみを捨てないというような形にしてもらいたいかなと思っているところです。そういう形で今22年になりましたけれども、僕も20年間会長をやっているんですけども、今日会った時に「まだやってるの?」と言われた感じですけども、今年くらいで終わろうかなと思っていますけれども、先ほど誕生日とかって言われたんですけども、今月が僕の誕生日で、9月27日で82歳になります。山形に27歳で来たのかな。24歳かな、くらいで来て、だから前に県議会で説明した時に、議員さんが「お前、よそ者なのに県の総合計画なんか作っていいのか」とかって言われた時に、「僕は山形に来て50年以上います。あなたが議員になる前からいたんですよ」とかって言ったらね、みんなにね、「お前、バカなことを言うな」とかって言われたんですけども、自分とすれば山形が好きで、山形を日本の中で一番誇れる地域にしたいなと。山形には大物はいません。大きいものはないけれども、地域の人たちがいいので、その人たちを少しでもみんな良くなればいいのかと。和雄さん、あの人が議員になる時に、「県民が主役ですよ、知事が主役じゃないんだよ、そういうのを県民1人1人が、一番弱い立場の人が中心になってくる地域が山形だよ」ということで、皆さんのこの中のたくさんの方が会員になっているので、皆さんが一歩動いてくれると山形ももっとよくなるのかなと思いますので、ぜひこれからもよろしくお願ひしたいと思ひます。

本日出席 (9 / 4)	会員総数	出席会員数
	102名	58名